



アニマルウェルフェア（AW）の歴史は専門書に譲ります。

本稿では、AWが世界の中でどのように広がってきたかと、AWとはなにものか、ということに焦点を当てて述べていきます。



アニマルウェルフェア（AW）の概念
＝EU憲章（2000）にも採用

世界的な流れになった転機
＝国際獣疫事務局（OIE、現在はWOAH）世界大会（2004）
“動物福祉の原則に関する指針”を採択
“五つの自由一家畜の理想的な状態”の概念を明示

日本のAW
“アニマルウェルフェアに関する新たな国の指針について”
農林水産省の各地方ブロック説明会（2023年9月～）
＝世界から20年遅れたスタート



東京オリンピック当初開催予定年（2021）

日本経済新聞（7月31日）
“五輪の食材調達に厳しい自家畜飼育基準、欧米より緩く”
alterna(オルタナ)（8月1日）
“五輪の畜産物、「調達基準甘い」メダリストら訴え”
それ以外のメディアは掲載せず
畜産物調達基準にアニマルウェルフェアが含まれていないことを問題とするもの

日本オリンピック委員会からの回答（10月）
＝対応不能

日本の食材調達基準
非常に厳しい衛生基準はあり
AWに関しては全く基準がない→日本は対応不能



過去のオリンピック選手村におけるAW関連の調達基準
 次回のパリ五輪：WOAHの本拠地（本稿は2023年作成）
 →リオより甘くなることはない

オリンピック選手村用食材におけるアニマルウェルフェアの歴史

大会開催地	卵	豚肉
ロンドン	屋外に自由に出られる放牧卵以上 ケージ飼育鶏&屋外に出られない平飼い卵の使用禁止	妊娠ストール飼育禁止 (英国では妊娠ストールは法的に禁止、大会の翌年1月にはEU全体で禁止)
リオ	ケージフリー必須 放牧か平飼い、有機飼料で育てた地鶏	公式な調達基準なし 国内の世界第1位の食肉加工会社などが大会までに妊娠ストール廃止
東京	飼育環境基準なし 地鶏の規定なし	飼育環境に関する基準はなし、妊娠ストールフリー宣言大手企業はなし
パリ	OIEの本拠地	
ロサンゼルス		



動物愛護と動物福祉の概念は似て非なるもの

動物愛護：“かわいい”“かわいそう”

人間の目線で動物を見ての感覚

動物福祉：動物のQOL（生活の質）の向上を目指す

動物の目線で動物の満足度を高める考え方

（両者は場合によっては激しく対立することも）

家畜福祉は動物福祉の延長線にあるもの

家畜福祉の基本原則として“5つの自由”という概念

×“どうせ殺して食べる家畜だから”

○“生きているときは最高の環境で、殺すときは苦痛なく”



① 飢えと渇きからの自由

- ・適切かつ栄養的に十分な食物が与えられているか？
- ・いつでもきれいな水が飲めるようになっているか？

② 不快からの自由

- ・清潔に維持された適切な環境下で飼育されているか？
- ・風雪雨や炎天を避けられる快適な休息場所があるか？
- ・怪我をするような鋭利な突起物はないか？

③ 痛み・傷害・病気からの自由

- ・普段から健康管理・予防はしているか？
- ・痛み・外傷・疾病の兆候はないか？その状態が診察され、治療されているか？



④ 正常な行動ができる自由

- ・恐怖や精神的苦痛（不安）や多大なストレスがかかっていないか？原因に対して的確な対応がとれているか？

⑤ 恐怖や悲しみからの自由

- ・十分な空間・適切な環境が与えられているか？
- ・動物の習性に応じて群れ/単独で飼育されているか？





各国で家畜管理者のアニマルウェルフェアトレーニングに関する**法律**が定められている（日本はなし）

EU 飼養者への規定に関する指示・指導
適切な訓練コースの受講

英国 飼養責任者による衛生及びアニマルウェルフェア計画の作成

スタッフの要件（意欲的で適格性のある）
スタッフの研修コースへの参加

米国 ハンドブックの使用

豪 基準に従った飼養管理
動物の健康、ウェルフェアに関する能力の習得

カナダ 適切な教育

基本的事項、豚の苦痛回避、緊急時の対応
疾病への対応



小括

日本の畜産における
アニマルウェルフェアの取り組みは
世界の流れから大きく遅れている

日本の畜産は
世界に類を見ない形態

